

YOUNG BLOOD

安全・絆・創造

2013年7月18日

第12回青年・女性役員研修会開催

JR連合青年・女性委員会 幹事 松浦 誠

平成 25 年 5 月 23、24 日に第 12 回青年・女性役員研修会が群馬県で開催され、各単組青・女組織の役員、グループ労組役員総勢 31 名が参加し「安全の確立」「政策課題」について学習を行いました。



1 日目は、JR 東日本ユニオン高崎地本で開催され、冒頭 JR 連合井口事務局長より、JR 連合における、安全、政策、政治、組織課題現状と青・女役員に期待することについて基調講演を受けた。その後、交運労協前事務局長の中西光彦氏より、1985 年に発生した「日航ジャンボ機墜落事故」当時の労働組合の対応や、その後の安全確立に向けた取り組み等についての特別講義を受け、公共交通機関においては、事故は最大の損失であり、労働組合の「安全の番人」として果たすべき役割について学びました。

また、上村企画部長からは「JR 連合の安全への取り組み」として、安全確立に向けた取り組みにおいて「ヒューマンエラーは結果であり原因ではない」との基本認識や、「すべての JR 関係労働者の死亡事故・重大労災事故ゼロ」に向けた取り組み、「鉄道の防災、減災対策」についての講義を受け、最後に前田教育・広報部長による「JR 連合が取り組む政策活動」についての課題提起を受けました。

1 日目の締めくくりとして行ったグループディスカッションでは「労働組合の役割とは」「労働組合と安全確立」「青年・女性役員求められるもの」のテーマについて参加者相互で活発な議論を行いました。

2 日目は、バスで群馬県上野村へ移動し、1985 年 8 月 12 日に発生した「日本航空 123 便墜落事故」で亡くなられた方々の追悼施設である「慰霊の園」へ向かいました。あいにく登山道は通行止めにより墜落現場である「御巣鷹の尾根」へ向かうことはできなかったものの、追悼施設を実際訪れたことで、参加者は安全を確立することの重要性や、同じような悲惨な事故を繰り返してはいけないということを認識しました。

「安全はすべてに優先する最も重要なこと」であるということに改めて認識し、青・女組織においても安全文化の構築や、意識の醸成に取り組んでいく必要があるということを研修会で学習することができ有意義な 2 日間となりました。



中西光彦氏（交運労協前事務局長）の講演